

山口県病院協会会報

2022 **10月号** No.77

- 発行日 令和4年10月1日
- 発行所 一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 三浦 修
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



医療法人社団生和会 周南リハビリテーション病院

〒745-1132

住 所 周南市大字湯野4278番地1

電 話 0834-83-3300

F A X 0834-83-3550

U R L : <https://shunan-rh.jp>

CONTENTS (目次)

会員病院紹介	2ページ
協会役員コーナー	3ページ
病院スタッフコーナー	4～5ページ
医療懇話会報告	6ページ
部会コーナー	7ページ
諸会議報告	7ページ
トピックスコーナー	8～9ページ
お知らせコーナー	10ページ

会員病院紹介

病院長挨拶「リハビリテーション医療の専門病院として地域社会に貢献します」



医療法人社団生和会
周南リハビリテーション病院
病院長 江頭 健輔

周南リハビリテーション病院（本院）は周南市、防府市ならびに近郊地域の地域医療に貢献するために昭和59年（1984年）に設立されました。診療科、病床数、関連施設、沿革などの詳細は以下の「病院の現状」を参照下さい。

本院では、地域のみなさまに「安心と生きがい」を永続的に提供するという理念のもと、職員が一丸となって地域の皆様に信頼される医療を提供するリハビリテーション病院を目指しています。

入院患者は急性期病院から紹介いただいた患者が殆どを占めています。現行の医療で最善を尽くしても身体機能障害等を起こす病気に苦しんでいる慢性期の患者を受け入れて、社会復帰を目指した「リハビリテーション医療」を提供しています。入院患者の疾患別割合は、脳血管系疾患69%、運動器系疾患が28%、その他3%となっています。回復期リハビリテーション病棟（44床）、障害者施設等一般病棟（82床）、医療療養病棟（84床）の3病棟、合計210床を有しており、様々な疾患に対応可能です。

回復期リハビリテーション病棟における在宅復帰率は91%（2021年10月～2022年3月）と言う結果を得ています。今後は、さらにリハビリ医療の成績を向上させるべく努力を進めてまいります。

医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士など専門スタッフがワンチーム（ONE TEAM）となり、個々の患者の現状、リハビリ目標などの情報を共有し、最適な支援を提供するチーム医療体制を構築していることは本院の特徴です。

退院後のフォローができる体制も構築していることが、本院のもう一つの特徴です。自宅退院や関連施設への退院を支援し、退院後の訪問リハビリ医療や在宅診療を通じて患者の社会復帰に「自信」をつける支援を提供しています。

今後も、リハビリテーション医療を専門とする地域医療機関として地域社会に貢献してまいります。どうぞよろしくお願いたします。

<病院の現状>

1) 概要

開設者 医療法人社団 生和会
理事長 白川 重雄
住所 山口県周南市大字湯野4278番地1
TEL 0834-83-3300
FAX 0834-83-3550
E-mail office@shunan-rh.jp
URL https://shunan-rh.jp
病院長 江頭 健輔
診療科 内科、神経内科、整形外科、呼吸器科、皮膚科、リハビリテーション科
病床数 210床（医療療養病棟84床、障害者施設等一般病棟82床、回復期リハビリテーション病棟44床）
介護事業 訪問リハビリテーション

医療法人社団生和会運営施設

【山口県内】徳山リハビリテーション病院、周南リハビリ元気村、住宅型有料老人ホームなごやかケア本館・別館、グループホーム和み、グループホーム和み福谷の森、

グループホーム和み潮音、介護老人保健施設なごやか熊毛、サービス付き高齢者向け住宅なごやか熊毛
【広島県内】福山リハビリテーション病院、呉やけやま病院、広島中央リハビリテーション病院、介護老人保健施設ゆめの杜、介護複合施設さくら並木、グループホームやまびこの里

2) 沿革

昭和59年4月 開設
平成20年4月 病院名を湯野せいわ会病院から周南リハビリテーション病院へ変更
平成21年1月 回復期リハビリテーション病棟認可
平成22年3月 訪問リハビリテーション開始
平成24年4月 徳山リハビリテーション病院開設にともない120床を分床移転

3) 特徴

周南市の閑静な温泉地である湯野に開設された生和会グループ発祥の病院です。

3種の病棟機能を持ち、地域基幹病院及び地域との連携を図り、慢性期の難治性疾患による長期療養や、回復期の特色あるリハビリ、在宅・社会復帰の手助けとなるよう機能強化を目指しています。

協会役員コーナー

回顧



特定医療法人南和会
みどり病院
理事長 吉居 俊朗

縁あって山口の地に二十数年……

介護保険制度が施行される前年にみどり病院院長を拝命いたしました。

当時、介護力強化病院であったみどり病院を、制度施行に対応する事に併せ、検討され始めた病床の再編（平成13年医療法改正による「療養病床」の創設）に沿った病院への転換に向けた対応最中で、事務長並びに総婦長と共に、先の見えない介護保険適応と医療保険適応へ押し量りながら挑戦する日々を過ごしました。

その後も主に高齢者医療を提供する病院として体制維持に努めましたが、平成18年度の医療・介護報酬同時改定以降の介護療養病床の不透明感と地域の療養環境維持のため、平成29年介護保険法改正により、転換先を、住まいと生活を医療が支える新しい施設「介護医療院」へ定め、平成30年度に迎えた法人50周年を機に本格的に検討、設立初年度に開設するに至りました。短期間で転換出来たのも、施設環境が介護保険制度施行時に実施した整備により大きく手を加える事無く出来たこと、職員も協力的に開設に向けて取り組めたこと、更に行政から積極的に御助力頂いたこと等ありました。

振り返ると、みどり病院においての記憶は介護保険に立ち向かう（翻弄された）ものだったと今更ながら考えさせられ、同時に共に歩んで下さった先輩・仲間達への思いが込みあがります。特に赴任当初、初見で人生の先輩と感じていた白髪だった当時の事務長が、実は同じ歳であった驚きを思い出しつつ、感謝の意をこめて記します。

救急病院が今後取り組まざる得ないACP



医療法人社団
宇部興産中央病院
顧問 清水 昭彦

世界でも類を見ない超高齢化社会を迎える日本にとって、救急病院が地域の病院・介護施設などと密接な連携を行うことは必然ですが、今後取り組まざるを得ないと思っているのがACP（Advance Care Planning）です。今日、特にがん患者や心不全患者の末期、正直どこまで積極的治療を行うことが、皆に幸せなのか考えさせられます。

厚生労働省は2018年に「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」に基づいた意思決定のプロセスを提示しています。終末期の治療をどう行うかあらかじめ患者と話し合うEOLD（End-of-life discussions）と患者が意思決定能力を失ったときに代わって治療やケアを医療従事者と話し合う代理意思決定者の特定が重要です。さらに、代理意思決定者とEOLD・ACPの内容を共有する必要があります。

実際時間がかかりますが、これによって、患者さん・家族・病院スタッフ、3方が満足する終末期治療が行えるのではと思っています。

当院では昨年より準備を始めこの4月からACPをどのように取り組んでいくのかを話し合う委員会を立ち上げました。この分野で先進的な取り組みをされている病院の先生に講演を行っていただき、スタッフ間で共通認識を持つ取り組みから始めました。この課題の登るべき山の高ささえもわかりませんが、かつてがん告知がタブーであった時代から普通になっている今を思うと、いくら時間がかかってもこの山を登るしかないと思っています。

病院スタッフコーナー

セラピストとして患者さん・ご家族にできる援助を考える



医療法人周友会
徳山病院
リハビリテーション科
副主任 佐方 誠

当院は『私たちは患者さん、ご家族を援助します』を病院理念としています。援助とはどのようなことなのかを日々考えながら業務を行っています。

コロナウイルスが蔓延している現在は、入院患者さんのご家族には面会制限にご協力をいただき、患者さんの状態についてご家族にその都度口頭で説明させていただいているものの、実際にはあまり現状が伝わっていないと感じていました。そのようなことから、オンライン面会を当院でも導入し、必要に応じてビデオ通話等を活用したり、録画したりハビリテーション中の患者さんの動作を見ていただくよう取り組みを始めました。ご家族からは動画をみて『こんなに歩けるんだ。だいぶ歩けるようになったんだね』と安心される声がよく聞かれるようになりました。また、家屋調査の際、デジタルカメラで撮影した患者さんの動画をご家族にお見せしたところ、『今会えないから、こうやって動く姿を見せてもらってすごくよく分かりました』と現状の状態をご理解いただき、

ポータブルトイレ導入の提案を快く受け入れて下さるケースもありました。

このようにデジタル媒体を活用することで、患者さん・ご家族に対し、現状を正確に伝えることができ、退院後の自宅環境設定もスムーズにできるようになりました。

コロナウイルスにより、様々な制限が生じていますが、その中でも患者さん・ご家族にどのような援助ができるのかを常に考え、臨機応変に対応できるセラピストでありたいです。

市内の中心にある病院としての役割



医療法人社団松友会
松本外科病院
看護師長

恵美須屋 憲江

当院は、昭和29年2月に設立し、今年で満68周年を迎えました。急性期病床36床、地域包括病床44床の80床の病院です。2次救急指定病院として、年間救急車を800件以上受け入れています。

現在、当院では、救急搬送時救急車内で抗原検査を実施し、陰性確認後の受け入れ体制としています。搬送されてくる患者様は交通事故や御高齢の方の骨折で手術が必要な方が多く、年間240件前後の手術を行っています。

今年度から副院長を迎え、整形外科手術は人工膝関節などの症例も行うようになりました。リハビリスタッフ8名と共にリハビリにも重点的に取り組んでおります。また、術後早期リハビリ開始に伴い、早い時期での在宅復帰・社会復帰も可能となっています。退院上の施設などの手続きを社会福祉士が主となり、患者様・御家族様との連絡を行っています。

看護部門については、厚生労働省の決めた看護基準を正しく行っています。入院患者様については、センサーマット・センサーピンやモニターリング利用にて、認知症で転倒転落の危険性のある患者様に役立てています。褥瘡予防については、エアーマットや手足を保護する発泡ビーズ等活用して看護しています。リハビリが開始となった患者様は、低床ベッドとし、ベッド上でもリハビリが出来る牽引器具を設置しています。

コロナ禍に突入し、第7波が押し寄せてきた情勢で医療逼迫という現状においても、患者様に適切な医療・看護が提供できるように職員一同、精進していききたいと思います。

病院スタッフコーナー

終末期のリハビリテーションについて



医療法人社団輝斉会
森田病院
理学療法士

田中 謙士郎

社会情勢や高齢化社会に伴い、フレイル状態の方が増えています。国もデイサービスや訪問リハビリテーションといった介護予防活動に力を入れてきていますが、新型コロナウイルスによる影響などで、浸透に少し時間がかかると思います。

当院でも総病床数36床のうち、車椅子、ストレッチャー、歩行器等の移動手段が不要の方はほとんどいません。又、起居動作が全介助の患者様や終末期を当院で生活される方も増えてきています。そのような状態低下した患者様は、精神面でも落ち込みが大きく、リハビリテーションに対する意欲が低い方が多いです。そういった方のリハビリテーションを行うことは容易ではありません。

その為、終末期のリハビリテーションで重要なのは、いかに患者様や家族の希望に寄り添えるかだと思います。ただ漠然と筋力向上や関節可動域維持、基本動作能力の向上などといった状態の維持、向上に努めるのではなく、その方や家族に何をしたいのかを聞き、その目標に少しでも近づけるように進めていくのが、大切になってきます。言葉にするのは簡単ですが、これが一番重要で一番難しい事だと感じています。

その為、様々なスキルが要求されますが、その中で重要となってくるのがコミュニケーションのスキルです。なかなか一朝一夕で身につく物ではありませんが、今後も努力を重ね、患者様に寄り添った治療が出来るように努力していきたいと思っています。

発達障害者の求める障害者支援とは



医療法人社団葵会
稗田病院
公認心理士

松岡 英明

私は、公認心理師として精神科デイケアの発達障害プログラムを担当しています。つい先日、自閉スペクトラム症の女性利用者からこんな言葉を聞きました。

「私が周囲から批判されたりするのは、心に余裕のない人が周囲にたくさんいるからだと思うんです。だから、自分が世の中で辛い目に遭わないために、周りの子どもやその親には幸せになって欲しい」

この発言からは、治療を受けるだけでは、発達障害を取り巻く問題は解決されない現実が窺われます。「社会では、傷ついたり苦勞をするのは当たり前」という価値観が多数派の世の中では、生きづらい人がいると訴えているようにも聞こえます。

大人になって発達障害の診断を受ける方の多くは、一見するだけでは障害があるとはわかりません。言い換えれば、発達障害者はとても身近なところで、人知れず困っているということです。これらの事実は、「障害者が社会に合わせる」ための支援だけでいいのか？という疑問を私に投げかけます。

私は、個人中心の支援と社会環境面（企業や公的機関）への働きかけの強化が、当デイケアの課題と考えています。しかし、もっと大切なことは、心にゆとりを持ち、誰に対しても優しい気持ちでいること、つまりは身近な人を思いやることや、自身の心をケアすることなのではないでしょうか。そういった思いやりの連鎖で、障害を持つ人も持たない人も生きやすい世の中が出来上がっていくように思います。当然の事ですが、支援者にとっても大切なことを、彼女の言葉は示唆してくれているように思います。

医療懇話会報告

令和4年8月26日（金）午後3時より、セントコア山口において令和4年度医療懇話会が開催され、山口県健康福祉部からは弘田隆彦部長ほか13名、山口県病院協会から三浦修会長ほか21名が出席した。

三浦会長ならびに弘田部長より挨拶がなされ、出席者の自己紹介が行われた。続いて、健康福祉部の各課長より、令和4年度の山口県健康福祉部の事業概要についての説明および新型コロナウイルス感染症対策に関連する事業が報告された。

次に、事前に提出された以下の質問事項のそれぞれに、県担当課長より回答がなされた。

1. 新型コロナウイルス感染症の蔓延について
2. 学校保健への出務に対する評価について
3. 今後の新型コロナワクチン接種について

上記のほか、新型コロナウイルス感染症療養費の未収問題、医療と行政の連携について等、第7波の感染拡大中における様々な課題について協会側からの意見要望が県へ伝えられ、各担当課長と積極的な意見交換がなされた。



三浦 修 会長



弘田 隆彦 部長



懇話会風景

部会コーナー

山口県病院協会 看護部長部会 第1回常任幹事会

日時 令和4年7月14日（木）10：30～12：00
開催場所 山口県総合保健会館4階 山口県病院協会事務室

【協議事項】

1. 令和4年度看護部長部会総会および研修会について
2. 看護職員を対象とする研修会の実施について
3. その他

諸会議報告

令和4年度 第2回理事会

日時 令和4年9月14日（水）15：00～16：00
開催場所 セントコア山口

【承認事項】

1. 第19回山口県ケアマネジメント研究大会への後援依頼について
2. リレー・フォー・ライフ・ジャパン2022やまぐちへの後援依頼について
3. 令和4年度山口県肝疾患コーディネーター養成講習会への後援依頼について
4. 日本医療マネジメント学会 第21回山口県支部学術集会後援のお願いについて

【協議事項】

1. 令和5年度定時総会について

【報告事項】

1. 県行政委員等の推薦について
 - ・山口県医療審議会委員
会長 三浦 修（再任）
 - ・県立総合医療センター機能強化基本構想検討委員会
副会長 馬場 良和（新任）
 - ・山口県死因究明等推進協議会委員
副会長 馬場 良和（再任）
2. 県各種委員会等の結果報告について

三浦会長

 - ・急速な感染拡大に伴う検査・診療体制等の見直しについて（8月1日）Web
 - ・新型コロナウイルス感染症関係医療機関Web会議（8月10日）Web

神徳副会長

 - ・第1回山口県医療対策協議会専門医制度部会（8月18日）Web

馬場副会長

- ・令和4年度山口県献血推進協議会（5月12日）Web

林常任理事

- ・令和4年度山口県がん対策協議会（5月20日）Web

天津参与

- ・令和4年度山口県男女共同参画推進連携会議（8月3日）県庁

3. その他

令和4年度 第2回情報管理委員会

日時 令和4年9月14日（水）16：00～17：00
場所 セントコア山口

【協議事項】

1. 10月号の発行について
2. 新年号の発行準備について
3. その他



トピックスコーナー

サイバー犯罪被害防止に向けた取組について

～「山口県警察サイバーセキュリティパートナーシップ」としてご支援・ご協力を！～



山口県警察本部生活安全部
サイバー犯罪対策官

金子 光男

山口県病院協会会員の皆様におかれましては、「人命と健康を守る」という重責を全うするため、日々、最前線で医療行政にご尽力されていることに對し、心から敬意を表する次第であります。

また、今年度から、サイバー犯罪被害防止のための情報発信ネットワーク「山口県サイバーセキュリティパートナーシップ」にご参入いただきましたことに、厚く御礼申し上げます。

さて、近年、様々な分野の事業者における業務のデジタル化、子供から高齢者まで年代を問わずスマートフォンやパソコンが普及するなど、サイバー空間が社会経済活動の場として大きなウエイトを占めるようになったことにつきましては、皆様も日々の生活

の中で実感しておられることと存じます。

一方で、サイバー空間における新しいサービスや技術を悪用した犯罪が続々と発生し、その手口は、悪質・巧妙化の一途をたどっており、国内では、令和3年におけるサイバー犯罪の検挙件数が12,209件と過去最多を記録しているほか、ランサムウェアによる被害が拡大するとともに、不正アクセスによる情報流出等、サイバー空間を巡る脅威は極めて深刻な情勢が続いています。

前述のランサムウェアとは、感染すると端末等に保存されているデータを暗号化して使用できない状態にした上で、そのデータを復号する対価として金銭を要求する不正プログラムのことをいいますが、最近では、国内各地の医療機関において、電子カルテ等のシステムがこのランサムウェアに感染して、新規の診療受付や救急患者の受け入れが一時停止し、システム復旧に膨大な金額を要するなどの被害も発生しているところです。

さらに、個人の生活面においては、山口県内はもとより全国各地で、「クレジット情報の不正利用」やアプリのID・パスワード等を盗取される「フィッシング詐欺」、パソコンに偽の警告画面等を表示させてセキュリティ費用などを電子マネーで購入させる「サポート詐欺」等の被害も数多く発生しており、昨年、県内では、これらを始めとするサイバー犯罪相談が過去最多となる3,967件寄せられています。

サイバーセキュリティ パートナーシップだより

R4-12

県内で「サポート詐欺」が連続発生

～ウソのウイルス警告画面に注意!!～

6月に入り、県内でパソコンに「ウイルスに感染しました」等の音声入りのウソの警告画面を表示させ、電話をかけた人に復旧費用として、電子マネーでの支払いを要求する「サポート詐欺」が連続発生しています。

【偽警告画面の例】

～ 警告画面が出たら ～

- 電話をかけるな
- 「X」ボタンで警告画面を閉じる
- 操作できないときは、再起動させる
- 一人で悩まず、家族や警察、専門業者等に相談する

あわてず!!
おちついて!!

- 被害防止のため、セキュリティ対策ソフトの導入を検討してください
- OS、セキュリティ対策ソフト、その他ソフトウェアは最新の状態に更新してください

山口県警察本部サイバー犯罪相談窓口 県警ホームページにて広報資料
 TEL 083-922-8983 や動画を公開中です。
 mail cyber.soudan@police-pref.yamaguchi.lg.jp [詳しくはQRコード参照]

サイバー犯罪被害防止広報紙の例
※当協会会員へ随時、最新号をお送りしています。

現在、県警察におきましては、こうしたサイバー犯罪の被害防止対策の一環として、冒頭でも触れましたが、「山口県警察サイバーセキュリティパートナーシップ」という名称で、行政機関や事業者・団体等で構成するネットワークを構築し、サイバー犯罪の最新の手口の紹介や被害防止のために取るべき対策に関する情報発信等に取り組んでいます。

この度、このネットワークにご参入いただいた貴協会の医療機関や従事者の皆様はもとより、各機関を御利用される患者の方々が、こうしたサイバー犯罪の被害に遭われることがないように、各機関でも回覧・掲示が可能な広報紙を配信するなど、タイムリーな情報発信に取り組んでいくこととしておりますので、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴協会のより一層のご発展と会員の皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。



山口県病院協会が後援する集会等のお知らせ

第37回 中四国精神保健福祉士大会 山口大会

開催日 令和4年10月22日（土）～23日（日）
開催方法 Zoomを使用したオンライン開催
連絡先 医療法人社団共愛会 徳山静養院 担当 上田 Tel：0834-31-1734

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2022やまぐち

日時 令和4年10月22日（土）14：00～20：00
場所 維新百年記念公園 維新大晃アリーナ
連絡先 リレー・フォー・ライフ・ジャパンやまぐち実行委員会 Tel：083-933-0008

日本医療マネジメント学会 第21回山口県支部学術集会

開催日 令和4年10月29日（土）13：00～17：00
場所 岩国市医療センター医師会病院
連絡先 岩国市医療センター医師会病院 担当 大賀・河村 Tel：0827-21-3211

第19回 山口県ケアマネジメント研究大会

日時 令和4年11月26日（土）10：00～16：20
開催方法 会場参集及びZoomを併用したオンライン開催
場所 山口県社会福祉会館 4階 大ホール
連絡先 一般社団法人 山口県介護支援専門員協会 担当 岡村・奥田 Tel：083-976-4468

お知らせコーナー

「がん検診受診率50%達成に向けた集中キャンペーン月間」および「やまぐちピンクリボン月間」

10月は、「がん検診受診率50%達成に向けた集中キャンペーン月間」（厚生労働省）及び「やまぐちピンクリボン月間」（山口県）です。

厚生労働省及び県では、がん検診受診率50%の目標達成に向けて、がん検診の重要性等の普及啓発等に取り組んでおりますので、地域住民の皆様にご協力をお願いいたします。



©山口県



©山口県

病院協会の主な行事予定

- | | | |
|---------|------------|----------------|
| ○10月19日 | 看護師長研修会 | (Web開催) |
| ○11月15日 | 第3回理事会 | (会場：KKR山口あさくら) |
| ○12月14日 | 第3回情報管理委員会 | (会場：山口県総合保健会館) |

編集後記

本号でもさまざまな病院現場からの御投稿をいただき、ありがとうございました。つくづく病院組織は、如何に専門職の集団であるかと思わされます◆県警本部より、サイバーセキュリティ被害に対するパートナーシップについてご案内がありました。「ランサムウェア被害」、「フィッシング詐欺」や「サポート詐欺」などどんどん増加しています。送られてきます被害防止広報紙をぜひご確認ください◆8月24日に世界的カリスマ経営者稲盛和夫氏が90才で亡くなりました。「アメーバ経営」をはじめ、稲盛氏による経営哲学関連の書籍が私の本棚にも何冊か並んでいます。「アメーバ経営」の経営手法は、製造業や上場企業のみならず、医療機関にも適用することが可能で、病院向けにアレンジされた「病院版アメーバ経営」を導入された病院も多いと聞きます。数年前名古屋で開催された医療経営セミナーで、フィロソフィーの白いブックレットを購入したこともありました。もともと技術者だったということですが、インタビューなどで見られていた対応には厳しいところは無く、有難い穏やかな表情は誰にでもできるものではないと感じました◆稲盛氏の語録の中に、「やっぱり人生で一番大事なものというのは、1つは、どんな環境にあろうとも真面目に一所懸命生きること。それともう1つは、人間は常に「自分がよくなりたい、という思いを本能として持っていますけれども、やはり利他の心、皆を幸せにしてあげたいということ」を強く自分に意識して、それを心の中に描いて生きていくことです」とありますが、あやかることができればと思います。(西田 一也)